



ウェルビーイングの向上を願って

大隅教育事務所長 山元 卓也

3年前の早春に突然やって来た新型コロナウイルス感染症。振り返ると、卒業式や入学式をはじめ、今まで当たり前のものであった諸行事の実施が危ぶまれ、対面の授業さえもできなくなるなど、このパンデミックは教育の世界にも大きな影響を及ぼしました。しかし、この出来事は、各行事等がもつ意味や意義を積極的に問い直すこととしてこなかったことを再び問い直すきっかけを与えてくれました。また、学びを止めないということから、ICTの活用に取り組むきっかけも与えてくれました。

5月、感染症法上の位置付けは5類感染症へ移行され、これまでの制約はほぼなくなりました。この3年間で、私たちが教育現場で得たものと失ったものは何だったのかを改めて問い直し、教育活動を推進していく必要があると考えています。

さて、令和5年3月8日、中央教育審議会では、「次期教育振興基本計画について（答申）」を取りまとめました。この答申の中に「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が、次期計画のコンセプトの一つとして掲げられました。ウェルビーイングを直訳すると「幸福」、「健康」であり、ウェルビーイングの実現とは「身体的、精神的、社会的に良い状態にあること、そしてその幸福が短期的なものではなく、生涯にわたって続いていくこと」と言われています。教育の分野においてウェルビーイングが求められる背景として、子供たちの抱える困難が多様化・複雑化していることや、持続可能な社会の創り手の育成に向け、自己肯定感を高める必要があることなどが挙げられています。ウェルビーイングが示す内容はとても広く、目指す状態も個々によって異なります。そして、この実現には、教育の範囲だけでは到底無理で、実現への道のりは単純ではなさそうです。それでも、教育が果たす役割と可能性は非常に大きいと考えています。

学校訪問で、教師とのやりとりの中に子供の明るい笑顔が見られました。運動会では、地域の方々や子供たちの生き生きとした姿に出会いました。今を生きている人々の幸せが伝わってきました。本地区の子供たちが「分かった」、「できるようになった」、「努力してよかった」、「みんなのために頑張ることができてよかった」と学びの喜びや成果を感じる経験をこれからも積み重ねてほしいと考えています。誰一人取り残すことのないように、私たちは学校での教育活動を推進していきたいと思ひます。それが、ウェルビーイング向上の第一歩となることを願って。

～大隅地区教育課題【最重点課題・重点課題】～

「確かな学力の定着」

<キーワード>

学習者主体の授業づくり

最重点課題

Q 本年度の目標は・・・？

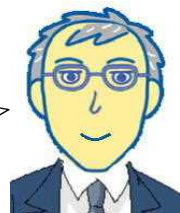
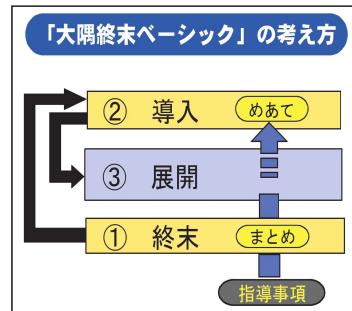
令和5年度鹿児島学習定着度調査 全教科で「通過率7割以上」「県平均以上」

Q 本年度の取組のポイントは・・・？

- 大隅終末ベーシックの考え方で単元をデザインする。
□ 「終末3点セット(まとめ、見届け問題、振り返り)」のある授業をデザインする。

Society5.0の社会が実現しつつある現在、教師が一方向的に説明したり、知識だけを詰め込んだりするような「教師主体の授業」では必要な資質・能力を育成することは困難です。児童生徒が自分事として、未知の内容や状況に対しても主体的に問題を解決していく「学習者主体の授業」の構築が重要になります。

そのためには、大隅終末ベーシックの考え方にに基づき「指導の個別化、学習の個性化」、「終末3点セット」の位置付け等の観点で単元をデザインしていくことが重要です。是非、教科書、指導書、学習指導要領解説とともに、大隅学力向上リーフレットを開きながら授業づくりを行っていきましょう。また、事務所指導主事が依頼等に応じて訪問し、授業者とマンツーマンで行う授業づくりについて相談する「よろず相談」や事務所作成の「よか問」の積極的な活用もお願いします。



<担当：久保>

「不登校の改善」 <キーワード>

居場所づくり, 絆づくり



Q 本年度の目標は・・・？

不登校児童の在籍率 小：0.68%未満, 中4.75%未満

Q 本年度の取組のポイントは・・・？

<担当> 大迫

新規不登校児童生徒を出さないためには、「魅力ある学校づくり」が大切です。そのためには、「居場所づくり」と「絆づくり」を意図的・計画的に積み重ねる必要があります。居心地のよい教室環境をつくり、分かる喜びのある授業や互いの意見を認め合う授業を展開し、仲間との絆が育まれる機会をつくる必要があります。全ての児童生徒を意識した生徒指導を展開しましょう！

お困りの際には、いつでも、教育事務所にも御相談ください。

重点課題

「体力・運動能力の向上」

<キーワード>

体力・運動能力の向上の実感

Q 本年度の目標は・・・？

体力・運動能力調査

県平均以上が男女とも小:7種目・中:4種目以上

Q 本年度の取組のポイントは・・・？



<担当> 福元

体力向上に向けては、児童生徒自らが自分の体力を把握し、課題解決に向けて目標や計画を立て、主体的に運動に取り組み続けるようにすることが大切です。

そのために、「個人ファイルの活用」「運動量の確保」「動きを確認するICT活用」「2回目の体力測定」等を工夫し、体力・運動能力の向上を実感させていきましょう。

「家庭・地域の教育力の向上」

<キーワード>

子供たちの「体験活動」

Q 本年度の目標は・・・？

地域行事への参加率

令和4年度地区結果の±5%以上

Q 本年度の取組のポイントは・・・？

地域行事や子ども会活動に参加できるように、諸行事の年間計画を確認し、事前に積極的な参加の呼び掛けをお願いします。また、毎月第3土曜日「青少年育成の日」は、部活動やスポーツ少年団をせず、地域活動へ参加する環境づくりが必要です。

学校・家庭・地域での様々な体験活動を通して、郷土を愛する心を育成していきましょう。



<担当> 東

特別支援教育の充実に向けて!!

障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指した取組に向けて、「共生社会」の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進が必要です。各学校においては、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制の充実や巡回相談の積極的な活用をお願いします。

校内支援体制の充実

特別な支援を必要とする児童生徒に係る移行支援シートや個別の教育支援計画等を活用しながら、教職員の共通理解を確実にし、支援内容・方法などについて検討し、指導及び支援の充実を図ることが大切です。

巡回相談の積極的な活用

特別支援学校の巡回相談員が、要請に応じて、小・中・義務教育学校等を訪問し、特別な支援を必要とする児童生徒に対する指導内容・方法に関する指導・助言等を行います。巡回相談の積極的な活用をお願いします。

※ 本年度、「大隅地区特別支援教育コーディネーター養成研修会」が開催されます。初めて特別支援教育コーディネーターに指名された先生が、その業務を遂行できるようにすることを目的とした研修会です。対象者の参加をお願いします。【令和5年7月31日(月) 肝付町文化センター】

大隅教育事務所の職員です。よろしくをお願いします。

※下線は転入者

所長	山元 卓也	【管理課】	課長	富 卓哉	指導主事	長野 一成
【総務課】		課長	長 宮崎憲一郎	指導主事	東 浩二	
課長	春花 政浩	専門員	専門員	指導主事	植元 健一郎	
主幹兼係長	前迫 卓也	主事	主事	指導主事	植元 裕次	
主事	柚木崎雅史	主事	主事	指導主事	久保 博之	
主事	中森 菜月	【指導課】	課長	富田 好昭	指導主事	大迫 剛
主事	谷口 真菜	主任指導主事	主任指導主事	宮路 直子	社会教育指導員	西村 信一
補助事務員	浅井 由美				団体書記	吉国 律子